

# 若者目線の新聞作りへ

静岡文化芸術大生ら  
次世代プロジェクト 記者と意見交換

浜松市中区の静岡文化芸術大と静岡新聞社、中日新聞社が共同で取り組む「次世代発想型新聞開発プロジェクト」の一環で、同大生らが24日、静岡市駿河区登呂の静岡新聞社・静岡放送本社を訪れた。「記者やってみたいプロジェクト」に取り組んでいる学生らが、記者との意見交換などを通じて、若者目線を生かした新聞の制作に向けてイメージを膨らませた。

今後取材・執筆に挑戦する学生7人、同大の加藤裕治教授、中日新聞社の記者が、本社社会部の記者ら4人と現在の新聞について意見を交わした。本社記者は「新聞はいろいろな記事があるのが魅



記者と意見交換する学生ら  
＝静岡市駿河区の静岡新聞社・静岡放送本社

学生はプロジェクト開始の10月から約1カ月、新聞を読み続けた感想として「SNSは他人の意見が反映されていて疲れる。新聞は情報だけが書かれていていい」「講義や課題、バイトで読む時間を取るのが難しい」と語った。意見交換の後には社内を見学し、新聞への理解を深めた。文化政策学部3年の須佐寛太さんは「新聞社も伝統の中で変化の方法を模索していることがわかった。自分だからこその取材をした」と意気込みを語った。次回は学生の取材テーマを話す予定。